プラスチックは
えらんで 減らして リサイクル

～6月は環境月間～

気になるプラごみのナゾ

私たちが日頃から行っているごみの分別。分別はごみを資源に変える大切な作業です。今回はその中でもプラごみ（プラスチック製容器包装）の分別に注目し、その必要性や分別したごみの行方などについて学びます。

▼詳細は市ホームページ

●問＝生活環境課　TEL 23-8122

どうしてプラごみを分別しなければならないの？

プラスチックは、軽くて丈夫、さびや腐食に強く安価で大量生産できる素材です。

現在では、私たちの身の回りにあるさまざまな生活用品に利用され、私たちが便利で豊かな生活を送るために欠かせない存在となっています。

一方で、その利便性から世界中で大量に消費され、天然資源の枯渇や環境破壊、廃棄物処理場の不足など、さまざまな問題を引き起こす要因の一つとなっています。

こうした課題を解決するため、日本ではプラごみの分別・リサイクルを進めています。

分別したプラごみはどこへ行くの？

事前処理したあとにコークス炉を用いて熱分解します。

熱分解の結果、40㌫は油（化学原料）になり再度プラスチック製品などの原料に、20㌫はコークスとなり鉄鋼製品に、残り40㌫はガスになり、炉の発電などに利用します。

私たちが分別して出したプラごみは100㌫無駄なく再利用されているのです。

リサイクルの流れ

※出典：日本容器包装リサイクル協会

私たちのごみ分別が最終処分場の延命化につながっています

市の最終処分場は、平成3年に約8億2500万円をかけて建設されました。

当初、最終処分場は平成15年には、ごみで埋め尽くされ使用できなくなってしまう見込みでしたが、プラごみの分別などを行うことで、これまで埋め立てていたごみの資源化が進み、現在でも最終処分場を利用できています。

最終処分場を新たに建設する場合、多額の費用と労力が必要になります。

最終処分場を1日でも長く利用し、次世代に「豊かな自然と共に安心してくらせるこばやし」を残すため、私たち一人一人が「混ぜればごみ、分ければ資源」を意識して分別に取り組み続けましょう。

不燃物などを埋め立てている最終処分場